

参考資料「ガザと映画祭とパレードと」 ver.2

1. この前のガザ攻撃の経緯と今の状況

きっかけという口実：

3人のイスラエル人青年が「6月12日に誘拐され、イスラエルが占領する西岸地区のヘブロン市北部で6月30日、遺体が発見された。／この誘拐の背後にはパレスチナ武装グループのハマスがいるとして、イスラエル当局はハマスの報復を明言」「イスラエルは閣議後の7月1日の朝、少なくとも34回、ガザ地区を空爆した。パレスチナ人に負傷者が出たとの情報がある。しかし、容疑者としている2名あるいはハマスが誘拐殺人に関わっていることを裏づける証拠をイスラエル当局は示していない。」12日以来イスラエル軍は西岸地区に地上侵攻し7/1までに364人が逮捕・拘禁された。(アムネスティ日本支部 2014/7/1

http://www.amnesty.or.jp/news/2014/0703_4708.html)

おこったこと：

国連人道問題調整事務所 OCHA <http://www.ochaopt.org/content.aspx?id=1010361>

訳「2014年7月7日、イスラエルによる空と海からの集中的な爆撃と、パレスチナによるロケット発射により、対立が悪化したことに伴い、ガザ地区で人道的な観点から緊急事態が始まりました。こうした敵対状況は、ガザ地区での脆弱性や不安定性の深刻化を背景に、人道的な悪影響をもたらしています。違法なトンネル経済の停止に続いて、2013年半ばから失業率は劇的に悪化しており、イスラエルによる長年のアクセス制限の影響が激化しています。さらに、事実上の政府に雇用されていた人たちは、警備にあたる軍を含め、2013年8月以来給与が定期的に支払われておらず、2014年4月からは一切給与のない状態です。現在進行している緊急危機のため、1日12時間の停電があり、基本的なサービスの提供もままならなくなっています。」※ IDP (Internally Displaced Person) : 国内避難民

Facts and Figures

<http://www.ochaopt.org/content.aspx?id=1010361>



As of 4 September 2014, 1500 hrs

岡真理さんのインタビュー記事から <http://iwj.co.jp/wj/open/archives/157429> 2014/07/26

“「境界にそって築かれた分離壁 [分離壁の間違い?] により、文字通り、監獄のように180万人が閉じ込められているのです。随所に監視タワーがある。境界線から1.5キロメートルに立ち入ると、発砲される危険がある」。

陸路、海路、空路のすべてが完全封鎖。住民の出入りが不可能なのはもちろん、物資、医薬品、電力など生きるために必要なあらゆるものが入ってこない。生活は常に低水準に置かれる。ガザでは乳幼児の52%が栄養失調状態、世帯の6割が食糧難の状態にあり、人口の8割に相当する150万人が、何らかの国際援助がなければ食べていけない。

封鎖が恒常的にある一方で、さらに今回のように、数年に一度の大規模な攻撃作戦が実施される。それでも攻撃を受ける度に現地の人はまた立ち上がろうとする。「5年半前の攻撃をそれでも乗り越え、また基盤を整備する。しかし、そうするとまた、4年後の2012年に攻撃が起こる、さらに2年もせずに、今回のような攻撃がまた開始される」。

「この繰り返される攻撃のことを、イスラエル軍の隠語で『芝を刈る』と言うそうです。放っておけば人口がどんどん増え、破壊したのも元通りになる。だから、定期的に芝を刈るように、攻撃で破壊する。生活するのがやっとの状態に常しておくのです。」

日本では：

- 駐日イスラエル大使館前などでの抗議運動 (7/11, 12, 18, 23, 25, 8/9, 12 新宿, 9/5)
- 7/29 ソーダストリームの出店中止の新聞報道 - 2014/8/1-17 に東京表参道に期間限定の実店舗を出す予定 (6/29 発表) だった
- 情報源としておすすめ：パレスチナ情報センター <http://palestine-heiwa.org/>

2. 2014年夏のシュルマン読書会

“サラ・シュルマン「イスラエル／パレスチナとクイア・インターナショナル」読書会—イスラエルによるパレスチナ占領とプライドイベント支援の政治について批判的に考えるために” 2014年6月20日から8月29日まで、新宿2丁目aktaにて。ウェブサイトとメール、メーリングリストで告知。

取り上げた本／文献／映画

- 別紙1: WHO? Magazine 東京レインボーウィーク2014年のパンフレット 20-23ページ
- 川坂 和義. 2013. 「アメリカ化される LGBT の人権：「ゲイの権利は人権である」演説と〈進歩〉というナラティブ」『ジェンダー&セクシュアリティ』第8号、2013年3月、Journal of the Center for Gender Studies, ICU [PDF]
- エドワード W. サイド (著)、中野真紀子、早尾貴紀 (訳). 2002. 『戦争とプロパガンダ』. [みずす書房](#).
- サラ・ロイ (著)、岡 真理、小田切 拓、早尾 貴紀 (編訳). 2009. 『ホロコーストからガザへ：パレスチナの政治経済学』. [青土社](#).
- 臼杵 陽 [うすき あきら]. 2013. 『世界史の中のパレスチナ問題』. [講談社現代新書](#) 2189.

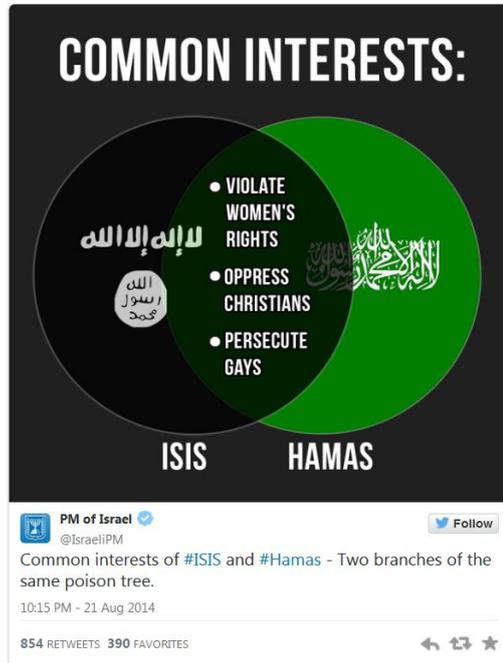
- 参考：イスラエル・パレスチナ問題 Q&A (2013/12/18) [<http://synodos.jp/faq/6161>]
 - Sarah Schulman. 2012. "Israel/Palestine and the Queer International." [Duke University Press](#).
 - 広河隆一監督『パレスチナ 1948 - NAKBA』2008/日本/131 分/スタンダード/ドキュメンタリー <http://nakba.jp/>
 参考：広河隆一(著). 2002. 『パレスチナ 新版』. [岩波新書](#) 新赤版 784.

3. 「ピンクウォッシング」という批判

「ピンクウォッシング (Pinkwashing)」とは：「LGBT の権利や自由を強調しイスラエルの近代的な民主主義国家としての肯定的な国家イメージを促進することによって、イスラエルによるパレスチナへの暴力を隠蔽したり、それに起因するイスラエルに対する否定的なイメージを塗り替えてしまおうとするイスラエルの国家的なイメージ戦略を批判的に言及する用語である。」(川坂, 2013, p. 23 Footnotes から)
[Jasbir Puar \(2007\) の川坂による読みから](#)：ホモナショナリズムという分析的枠組みによれば、国家的・文化的優位性の象徴としてアメリカは「例外」的に同性愛者を寛容にも内包するナラティブを「アメリカの性的例外主義」と名付け、このナラティブにより(対「イスラム文化」の)アメリカの国家的・文化的優位性は構築されている。この「アメリカの性的例外主義」の一部に、ネオリベラリズムとナショナリズムが前提でありその両方に協調する同性愛規範 (homonormativity) がある。
 - ちなみに、このときのアメリカ合衆国はヨーロッパ視点での「例外」です。

アメリカという共同体 健全な異性愛的国家 —異性愛規範そのものは維持	「イスラム文化」 同性愛嫌悪的で女性に抑圧的	
イスラエル 文明化されている	パレスチナ 野蛮でホモフォビック 文明化されていない 自爆テロ狂	Puar, J. 2010. Israel's gay propaganda war. The Guardian, http://www.guardian.co.uk/commentisfree/2010/jul/01/israels-gay-propaganda-war

ごく最近の例としては：ネタニヤフ イスラエル首相がツイートで (2014/8/21) ISIS とハマスを並べてどちらも「女性の権利を侵害し、キリスト教徒を押し、ゲイを迫害する」といったりする。<https://twitter.com/IsraeliPM/status/502443801273577472>



ではハマスを何を要求しているのか：

岡真理さんの投稿からの翻訳抜粋

<http://ameblo.jp/dentdelion7/entry-11899556563.html>

“10年間の休戦協定のための10の条件 (2014/7/16)

<http://mondoweiss.net/2014/07/report-israel-conditions.html>

- 1) ガザとの境界からイスラエルの戦車が撤退すること。(略)
- 2) 3人の少年殺害後に逮捕された囚人すべてを釈放すること。
- 6月、イスラエル人少年3人が誘拐されたあと、イスラエル政府は、

- 少年らが誘拐直後に殺害され、その容疑者も特定できていたにもかかわらず、その情報を隠匿し、少年たちを捜索するための軍事作戦を展開し、数百名を逮捕、その過程で9名を殺害しています。これは、西岸のハマース・メンバーを再逮捕することが目的でした。
- 3) 封鎖を解除し、境界の検問所を商業および人間に開放すること。(略)
- 4) 国連の監督のもと、国際用の港と国際空港を創り機能させること。
- 5) 出漁範囲を10キロまで認めること。

オスロ合意で認められたガザの領海は20海里でありながら、出漁は3～6海里に制限され[ている] (略)

6) ラファ検問所を国際化し、国連およびアラブ諸国の監督下におくこと。

7) 境界に国際軍をおくこと。

8) アル=アクサーモスクでの礼拝許可の条件緩和。

9) ファタハとハマースの和解合意にイスラエルが介入することの禁止 (略)

10) 工業地区の再建およびガザ地区における経済開発の改善。(略)

(2012年の攻撃のときの停戦は封鎖緩和が条件でした。しかし、イスラエルはそれを履行しませんでした。停戦の条件ですら履行しない者が、いった

ん停戦した後に協議して実効性ある答えが得られるわけがないとハマースが考えるのは、無理からぬことです。) (略)

イスラエルに対し、「一刻も早く攻撃をやめろ」だけではなく、封鎖の解除、そして、ハマース提案の休戦協定案を受け入れろ、ということを、国際社会が——私たちのことです——声を大にして訴え、もし、イスラエルがガザの違法な封鎖の継続を望み、ガザの人々を「生きながらの死」「緩慢な死」の状態にとどめおくことを臨んで、この休戦案を蹴るならば、そのようなイスラエルこそを弾劾し、制裁する必要があるのだと思います。”

「ピンクウォッシング」という批判の前提に対する批判：

Mikdash, M. 2011. Gay Rights as Human Rights: Pinkwashing

Homonationalism. Jadaliyya. 2011/12/16

<http://www.jadaliyya.com/pages/index/3560/gay-rights-as-human-rights-pinkwashing-homonationalism>

一部翻訳 “多くの進歩的批判は、ピンクウォッシングが、つまりパレスチナ人クィアが「彼らの文化」から逃れてこられる安全な避難先であるとイスラエル政府自身が宣伝する試みの過程であるが、それがゲイ・ライツやホモセクシュアリティとは第一義的には何ら関係がないという点を見逃している。ピンクウォッシングは、ただイスラム嫌悪やアラブ嫌悪の言説内で政治的な戦略として意味を持つのであり、アイデンティティとアイデンティティー主義的な（そして何者であるかを特定可能な）グループの軸内のすべての政治にしっかりとつながれている、より大きなプロジェクトの一部なのである。すなわち、国際的なクィアの同志となるものを当然のことと決めてかかっているピンクウォッシングの批判者たちは、ホモナショナリズムの中心的教義を繰り返している：つまり同性愛者たちは、連帯すべきであり、互いに感情移入すべきである、なぜなら彼らは同性愛者だから。サラ・シュルマンは最近ニューヨーク・タイムズに『西ヨーロッパやイスラエルの反移民や反モスリム勢力に白人ゲイを接収されること』の危険性について記事を書いた。[ここでMikdashはシュルマンの前提に反対している] 白人ゲイが、なぜ人種差別やゼノフォビアやイスラム嫌悪を能動的に作り出し、進んでそこに参加しているものとしてではなく、常にこうした勢力によって選ばれて接収されたものとして見られているのかという問いが立てられなければならない。もしパレスチナのクィア・アクティビストが私たちに何かを教えるとすれば、それはすべての同性愛者が味方であるとか潜在的に味方であるということはない、ということである。軍服に身をつんだゲイのイスラエル人は、敵であり、

反占領の政治における標的である。それは、合衆国に住むゲイのシオニストがパレスチナの運動にとって敵であるのと同様で、クィアのパレスチナ人がパレスチナの民族的な大義に根ざす以上、クィアのパレスチナ人の大義に対しても敵であるのと同様である。欧米のゲイが彼らのセクシュアリティに基づいて彼らのセクシュアリティを共有する他者から訴えかけられるべき、という考えは、政治からセクシュアリティを除外することや、クィアではない自身とコミュニティから『クィアのパレスチナ人』を除外することの両方に、加担している。それはまた、もし彼らが現地のゲイから近づかれて、より好まれるパターンとしてはLGBTQ権利についての共通の言語を使ってパレスチナの大義について話してくれた場合に、欧米のゲイはより応答するものである、というホモナショナルな議論に迎合しそれを再生産するのである。さらには、シュルマンの議論が立脚するのは、何か異なった潜在的に救済的なものがゲイであることに存在するという考えであり、この主張をすることで、彼女は普遍化されたホモフォビアの経験の情動的な傷に拠っているのである。しかしホモフォビアは、一つではないし、世界中の同性愛者によって同じように同じ広がりをもって経験されるものではない（なぜなら彼ら自身が同じものではないから）。さらにつけたすと、ホモフォビアは、いふなればアフリカ系アメリカ人クィアが経験する人種差別や、シリア人クィアが独裁やネオリベラルなマーケットの再構築に抵抗することと比べて、明確な経験ではないかもしれない。事実、人生においてある人が主として経験する差別が、ホモフォビアであるということは、通常他の面ではその人が特権的な存在であることの印に他ならない。世界の大多数の人びとにとって、抑圧は、エドワード・サイードの文化についての言葉をかりると、対位的な contrapuntal である。それは移動し、多方向であり、適応性があり、相互に接続した不正義の領域を作るのである。” (強調は原文ママ)

シュルマンのこういう文言が上記のような批判を受けている：

Schulman (2012)：テルアビブで、家族やホモフォビアや適切な反応といったものについてそれぞれ一つのモデルしかないわけではないことを指摘され、「それにはもちろん同意するが、けれども普遍的なリアリティというものもやはりあるのではないか。どの国でもどの民族でも、ヘテロセクシュアルたちの理解や受けとめ方が『中立的で自然で客観的で、諸々の価値観から自由で、あたりまえのそういうもの』になっていることは、クィアたちの問題であるという[普遍的なリアリティがある]。」 (75)

4. BDS 戦略について

別紙1：国際法および人権という普遍原理の遵守までイスラエルに対するボイコットと資本の引き揚げ、制裁措置を行うよう求めるパレスチナの市民社会からの呼びかけ (2005/9/5) http://palestine-heiwa.org/doc/20050709_badil_rc_al-majdal.html

Schulman (2012) でも挙げられている各地での「ピンクウォッシング」抗議運動や BDS の動き例：

2009年 (2008-2009年にガザへの侵攻があり市民含め1400人以上が死亡。)

- 映画監督のジェイ・グレイソンがテルアビブ LGBT 映画祭やトロント国際映画祭 (TIFF) への出品を取りやめた。

- TIFF が Brand Israel キャンペーンの一貫として TIFF でテルアビブ (都市) をあえて称揚することに反対する共同声明やナオミ・クラインの活動 (参考: デモクラシー・ナウ! 「占領を祝うな!」 トロント映画祭のテルアビブ特集に文化人らが抗議 2009/9/14 <http://democracynow.jp/video/20090914-1>)
- International Gay and Lesbian Travel Association がテルアビブで会議を開こうとした際レバノンの LGBT 団体が取りやめるよう要請。

2010 年

- カリフォルニア州立大学バークレー校での学生議会決議と、自治会長の拒否権発動後の全学生による投票によりイスラエルへの資金撤退方針が決定する。
- トロントの World Pride イベントがレバノンの LGBT 団体などにボイコットされる。トロントでは、プライドイベントに同市を拠点とするパレスチナ支援団体の Queers against Israeli Apartheid (QAIA) が参加するなら資金援助しないと市長が発言。結局 QAIA は公式にはそもそも参加していなかったため助成が止まることはなかった。この年とプライド・トロントが市から受けた助成は 175,000 カナダドル (?)。
- スペインのマドリッドでは、プライドマーチへのテルアビブ代表団のフロート参加を禁止。ガザ支援船へのイスラエル軍による攻撃に抗議。
- ドイツのベルリンでジュディス・バトラーが受賞予定だった賞を辞退し、主催の排他的な言動を批判、地元のマイノリティ LGBT 団体の活動を紹介する。(参考: tummygirl「ホモナショナリズム批判について、あるいは、ジュディス・バトラーによるベルリン・パレードからのプライズ受賞拒否関連メモ」 <http://d.hatena.ne.jp/tummygirl/20100628/1277728869> 2010/6/28)

2011 年

- サンフランシスコ LGBT 映画祭 Frameline は 100 万ドルの予算のうち 2,500 ドルをイスラエル領事館から受け取っていた。シュルマンらがイスラエルからの資金を断り、別の方法で同額調達することを提案したが、主催側は拒否。
- ポルトガルのリスボン LGBT 映画祭は、3 年間に渡る運動が功を奏し、イスラエルからの資金を公式に断った。同映画祭はイスラエルが 2005 年から出資していた。

5. 最近の日本政府とイスラエル政府/パレスチナの関係

別紙 3: [メモ] 急速に深まる日本とイスラエルの軍事・経済関係 (2014/7/26) <http://palestine-heiwa.org/news/201407261936.htm>

たとえば入植地についての日本政府の立場: 外務省 HP から <http://www.mofa.go.jp/mofaj/comment/faq/area/middleeast.html#08>

「中東和平問題における入植地の問題とは、イスラエル人が、占領地である東エルサレムを含むヨルダン川西岸地区に住宅を建設して、入植している問題です。入植地の最終的な地位については、オスロ合意やロードマップ等にあるとおり、イスラエル・パレスチナ両者間の交渉で決定されるべきであり、日本は、両者間の交渉が早期に開始され妥結するよう求めています。

しかしながら、こうした入植地に対しては、パレスチナ側の強い反発があり、また、これを国際法違反とする国連安保理決議もあり、日本を含む国際社会は、イスラエルに対し、入植活動の凍結・停止を呼びかけてきています。」

パレスチナは援助対象:

- ガザ空港は日本の ODA で作られた。

その他日本政府によるパレスチナ支援。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000040724.pdf> ←ワークショップではプリントアウトしたものを持参しました。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/region/middle_e/palestine/index.html

学術交流:

「イスラエルにおける軍産学の緊密な連携という状況については、国際的な学術交流の拡大やイスラエル経済のグローバル化を通じて、日本の大学や企業も無関係ではいられなくなりつつある。たとえば、2013 年 11 月にテルアビブで開催されたイスラエル・ロボット学会議には、ゲストスピーカーとして、イスラエル軍 (IDF) の技術部隊の大佐や、テルアビブ大学社会学部の安全保障プログラムを統括する元 IDF 技術開発部門長の教授などと並んで日本の大学の研究者も参加した。この会議のスポンサー・出展企業リストには、イスラエル・エアロスペース・インダストリーズ (IAI) やラファエルなど、イスラエルの代表的軍需企業とともに、産業用ロボットの世界的メーカーである安川電機のイスラエル法人 (1994 年設立) も名を連ねている。また、この会議とほぼ同時期には、日本学術会議とイスラエル科学・人文アカデミーとの間で、科学技術の協力促進を図ることを目的とした覚書が締結された。」 (役重善洋, 2014, 「イスラエルに対するアカデミック・ボイコットについて」日本中東学会 HP,

http://www.james1985.org/topics/gaza/gaza_letters_yakushige.html)

参考: [米国の学会の話ですが] イスラエルに対するアカデミック・ボイコットに関するアメリカ学会の決議 American Studies Association Resolution on Academic Boycott of Israel (2013/12/4) <http://palestine-heiwa.org/news/201312160603.htm>

武器輸出：

2014/7/28 赤旗 「安倍政権の武器輸出新原則 イスラエルへの輸出可能に これが「積極的平和主義」か」

http://www.jcp.or.jp/akahata/aik14/2014-07-28/2014072801_04_1.html

「イスラエル軍は連日、パレスチナ自治区ガザを攻撃し、パレスチナ人の死者は千人を超えました。このイスラエルに、安倍政権は4月に決定した武器輸出新原則（防衛装備移転三原則）により、米国を通じた武器輸出に道を開こうとしています。

イスラエルは米国の援助で、戦闘機440機（航空自衛隊は353機）を保有するなど、中東で突出した軍事力を保っています。パレスチナの武装抵抗組織ハマスとの差は歴然としています。

安倍政権の新原則では、国連安保理による制裁措置などが科せられていない場合、「紛争当事国」であっても武器輸出を可能にしています。これは、日本企業が共同開発に参加するF35ステルス戦闘機のイスラエルへの輸出を念頭においたものです。同国は20機程度の購入を予定しています。

さらに政府は17日、新原則に基づく初めての措置として、三菱重工業が生産している地对空誘導弾パトリオット（PAC2）の基幹部品（ジャイロ）の米国への移転を決定しました。米国は、日本製部品を使用したPAC2の第三国への移転を想定しています。当面はカタールが予定されているとみられますが、イスラエルもPAC2を保有しており、同国への輸出の可能性もあります。（後略）」

※ 日本の軍需産業や武器輸出については他にもっと詳しい本があると思いますが、ワークショップで話していたのはこれです。

島本慈子、2008、『ルポ 労働と戦争—この国のいまと未来』岩波新書 新赤版 1158

6. 東京の映画祭やプライドイベントでいつからどのくらいイスラエル政府がかかわっているのか（調査中）

9/29 付 東京国際レズビアン&ゲイ映画祭宛の問合せ（太字は訂正・追加箇所）：

“Janis といいます。

東京国際レズビアン&ゲイ映画祭では、イスラエル大使館から資金的な援助を受けていらっしゃると思いますが、それに関して質問があります。（すみません、長いです。）

はじめに今回ご連絡した経緯をご説明します。この6月から8月にイスラエル政府によるゲイ・イベントへの出資などによる対外的な文化政策についての勉強会を新宿のakta でしました。ちなみに勉強会はこういった内容でした。<http://selfishprotein.net/cherryj/2014/Schulman.html>。勉強会の背景を少し書きますと、つい最近これは勉強会の企画時には想定していなかったのですが、7月から8月にかけてイスラエル軍によるガザへの激しい攻撃がありました。同地区ではごく短期間に戦闘員ではない市民を含め2200人以上【**パレスチナ人側の死亡者は2,131人でした**】が殺されています。一般家屋をはじめビーチで遊んでいた子どもや宗教施設、病院、救急車やジャーナリストの車両、避難所になっていた学校にまで爆撃があったことなどから国際法違反であるとイスラエル政府は非難されています。（被害状況はこちらのまとめが分かりやすいです。

<http://matome.naver.jp/odai/2140494894563492301>）

また同地区が2006年以来住民の自由な往来が制限されているほか頻繁な停電などインフラも整っておらず住民が厳しい生活を強いられていることや、パレスチナ人の住居を奪う形で作られる入植地の拡大など、建国以来イスラエル政府がパレスチナ人の人権を著しく奪ってきた【**侵害してきた**】ことはこれまでから国際的に批判されてきました。

こういった状況で今回のガザ攻撃があったために、国際的な世論は今までよりもイスラエル政府に批判的になっています。イスラエル政府のこうしたパレスチナ人たちへの決して寛容とはいえない政策は南アフリカのアパルトヘイトにたとえられることもあり（人によってはそれよりひどいといいます）、日本でも他国でもイスラエル製品のボイコット運動などの抗議運動が行われているほどです。例 <http://d.hatena.ne.jp/stop-sodastream/>

こうした状況にもかかわらず、イスラエルが国内外でプライド・イベントやLGBT映画祭への支援などを通じ、同国が「（中東の他の国とは異なって）近代的で民主的でLGBTに寛容な国家」で、たとえばテルアビブが「LGBT向けの観光地として最適である」といった宣伝をしていることは、あまりにもひどい偽善ではないかという批判があります。これはイスラム教（徒）やイスラム諸国に対する偏見を利用した「ピンクウォッシング」であると批判されていて、「ピンクウォッシング」のキーワードで検索すると日本語でもイスラエル政府に批判的な記事や文章が出てきます。【**マサキチトセ（2012/07/17）** <http://cmasak.hatenablog.jp/entry/20120717/1342480275>、**牧村朝子（2013/10/28）**

<http://www.2chopo.com/article/628/>、**ひびのまこと（2014/8/9）** <http://d.hatena.ne.jp/hippie/20140809>】ただ日本社会では一般にはイスラエル/パレスチナ間の問題について情報が十分には届いていなかったり、いわゆる宗教紛争と誤解されていたり、「ピンクウォッシング」という批判の具体的な内容についてあまり知られていない実感があったので、上記の勉強会を企画しました。

勉強会を経て、東京でのプライド・イベントや映画祭等でイスラエル政府からの援助を受けることが今後あるのであれば、そうしたイベントの主催者の方からあらためて説明していただけないかと思った次第です。

質問は5つあります。

1) 各国大使館や企業や団体の支援を受けるにあたって、東京国際レズビアン&ゲイ映画祭運営にかかわっていらっしゃる方の中で、何か基準はありますかでしょうか。たとえばこういう政策がされている国の大使館に特に声をかけるようにしているだとか、相手から申し出があれば基本的には来るもの拒まずという形をお願いしているとか、こういう場合には支援を断るつもりでいるだとか、すでに決めていらっしゃる基本方針があれば教えてください。

2) 東京国際レズビアン&ゲイ映画祭ではこれまでに第何回 (もしくは何年度開催の回) の映画祭についてイスラエル大使館もしくはイスラエル国営企業 (航空会社など) からの後援を受けていらっしゃいますか。

3) 直近の 2014 年度について全体の予算 (収支規模) と特にイスラエル政府機関からの援助金額を教えてください。その際どの大きさの広告などのメディアに掲載するといった具体的な条件も合わせて教えていただけるとありがたいです。

4) 今後、東京国際レズビアン&ゲイ映画祭ではイスラエル大使館から支援を受けられそうであれば引き続きスポンサーになってもらおうと今のところお考えでしょうか。

5) 質問 4 に関連して、今後その判断が覆ることがあるとすればそれはどういった場合でしょうか。

お忙しいとは存じますがお返事いただけますようお願いいたします。

一度に全部お答えいただくのが難しければ、一部の質問のみに対する回答を先にいただく形でも結構です。

なおこちらの問合せ内容についてはウェブサイトで公開しています。

<http://selfishprotein.net/cherryj/indexj.shtml>

よろしく願いいたします。

Janis”

9/29 付 東京レインボープライド宛の質問部分：

“1) 各国大使館や企業や団体の支援を受けるにあたって、東京レインボープライド主催の方の中で、何か基準のようなものはありますかでしょうか。たとえばこういう政策がされている国の大使館に特に声をかけるようにしているだとか、相手から申し出があれば基本的には来るもの拒まずという形をお願いしているとか。

2) 2014 年度について収支報告をまもなくされるとと思いますが、もし可能であれば各大使館からの出資状況を詳しく公開していただけないでしょうか。特にイスラエル大使館からの援助金額を教えてください。もしくは開示されている料金通りであれば (見落とししてしまっているかもしれないので)、具体的にどの種類の支援をイスラエル大使館もしくはイスラエル政府系組織から受けたのか教えていただけますでしょうか。

3) 今後、東京レインボープライドではイスラエル大使館から支援を受けられそうであれば引き続きスポンサーになってもらおうと今のところはお考えでしょうか。

4) 質問 3 に関連して、今後その判断が覆ることがあるとすればそれはどういった場合でしょうか。”

↑ 最後の質問がワークショップ配布バージョンから抜けていました。

7. これからどうしましょう

- 東京レインボープライドと東京国際レズビアン&ゲイ映画祭については、もうしばらくお返事を待つ。
- 東京レインボープライドと東京国際レズビアン&ゲイ映画祭に対してそれぞれがメッセージを送ってみる。
- 東京レインボープライドと東京国際レズビアン&ゲイ映画祭に対して公開質問状を出す。
- イスラエル大使館宛に公開質問状を出す。
- (もし 2015 年開催のプライドや映画祭ではイスラエルの出資が継続した場合には特に) 共同声明みたいなものを出す。
- この問題に特化して情報発信するためのブログまたはそれに類したものを開設する。小さいリーフレットとかも作れればいいけど。
- サラ・シュルマンが来日するかもしれないのでピンクウォッシング関連でイベントを開催する。2014 年 12 月 7 日曜日?
(サラ・シュルマンさんに連絡してみます)
- パレスチナ支援やイスラエルに抗議活動をしているほかの人たちと連絡を取る。たとえば?
- 理解を深めるためと、知識を共有するために、学習会や講演会、上映会のようなイベントをやる。